

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年2月13日
【四半期会計期間】	第41期第3四半期（自 2018年10月1日 至 2018年12月31日）
【会社名】	株式会社アミューズ
【英訳名】	AMUSE INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役 社長執行役員 畠中 達郎
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区桜丘町20番1号
【電話番号】	(03)5457-3333
【事務連絡者氏名】	執行役員 大嶋 敏史
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区桜丘町20番1号
【電話番号】	(03)5457-3333
【事務連絡者氏名】	執行役員 大嶋 敏史
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

(注) 第41期第1四半期報告書より、日付の表示を和暦から西暦に変更しております。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第40期 第3四半期 連結累計期間	第41期 第3四半期 連結累計期間	第40期
会計期間	自2017年4月1日 至2017年12月31日	自2018年4月1日 至2018年12月31日	自2017年4月1日 至2018年3月31日
営業収入 (千円)	33,771,859	37,985,344	47,283,807
経常利益 (千円)	2,436,462	2,803,963	3,237,737
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	1,562,355	3,117,975	1,887,338
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	1,673,172	3,023,801	2,040,908
純資産額 (千円)	26,243,160	29,058,886	26,604,327
総資産額 (千円)	39,375,561	40,904,694	39,076,252
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	90.48	180.36	109.29
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	62.7	67.5	64.0

回次	第40期 第3四半期 連結会計期間	第41期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自2017年10月1日 至2017年12月31日	自2018年10月1日 至2018年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	59.43	125.47

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 営業収入には消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 1株当たり四半期(当期)純利益の算定において、「役員報酬BIP信託」及び「株式付与ESOP信託」が保有する当社株式を自己株式として処理していることから、期中平均株式数から当該株式数を控除しております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

〔当第3四半期連結累計期間の経営成績〕

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	増減	増減率 (%)
営 業 収 入	33,771	37,985	4,213	12.5
営 業 利 益	2,375	2,608	232	9.8
経 常 利 益	2,436	2,803	367	15.1
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,562	3,117	1,555	99.6

〔経営成績の分析〕

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、政府の各種経済政策などにより、企業収益や雇用、所得環境の改善傾向が続くなど緩やかな回復基調が継続いたしましたが、米中貿易摩擦をはじめ海外経済の不確実性、金融資本市場の変動などに留意すべき状況が続いております。

当社グループの経営成績は営業収入379億8千5百万円（前年同四半期比12.5%増）、営業利益26億8百万円（前年同四半期比9.8%増）、経常利益28億3百万円（前年同四半期比15.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益31億1千7百万円（前年同四半期比99.6%増）と増収増益となりました。前年同四半期に比べ、大型コンサートツアー、関連グッズ収入の増加により増収となりましたが、同時にイベント制作費の増加により営業総利益は減益となりました。しかしながら、販売費及び一般管理費の減少、持分法投資損益の改善に加え、固定資産売却益など特別利益の計上により大幅な増益となりました。

<営業収入>

- ・ イベント収入（大型コンサートツアー）が増加
- ・ 商品売上収入（グッズ・商品収入、音楽パッケージ）が増加
- ・ 印税収入（旧譜）が増加

上記要因などにより増収となりました。

<営業利益>

- ・ イベント制作費の増加などにより営業総利益は減益となりましたが、販売費及び一般管理費の減少により営業利益は増益となりました。

<経常利益>

- ・ 持分法投資損益の改善により増益となりました。

<親会社株主に帰属する四半期純利益>

- ・ 固定資産売却益など特別利益の計上により大幅な増益となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

(営業収入)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	増減	増減率 (%)
アーティストマネージメント事業	28,998	33,096	4,097	14.1
メディアビジュアル事業	1,125	941	183	16.3
コンテンツ事業	1,921	2,285	364	19.0
プレイスマネージメント事業	1,726	1,661	65	3.8
合計	33,771	37,985	4,213	12.5

(セグメント利益又は損失())

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	増減	増減率 (%)
アーティストマネージメント事業	2,595	2,903	307	11.8
メディアビジュアル事業	49	94	143	-
コンテンツ事業	691	876	184	26.7
プレイスマネージメント事業	7	114	107	-
調整額	854	1,150	296	-
合計	2,375	2,608	232	9.8

【アーティストマネージメント事業】

営業収入330億9千6百万円(前年同四半期比14.1%増)、セグメント利益29億3百万円(前年同四半期比11.8%増)となり、増収増益となりました。

【主な事業】

- ・ イベント収入：<コンサート>
福山雅治、ONE OK ROCK、Perfume、BABYMETAL、
SEKAI NO OWARIのコンサートツアー
ポルノグラフィティ、Maydayのコンサート
Amuse Fes in MAKUHARI 2018
<舞台・公演>
地球ゴージャス「ZEROTOPIA」、熱海五郎一座「船上のカナリアは陽気な不協和音」
- ・ 商品売上収入：コンサートグッズ、ONE OK ROCKライブDVD
- ・ FC収入：サザンオールスターズ、福山雅治、BABYMETAL、Perfume、ONE OK ROCK、
SEKAI NO OWARIなど
- ・ 印税収入(新譜)：サザンオールスターズ(アルバムCD)、Perfume(アルバムCD)
- ・ 出演収入・CM収入：大泉洋、吉高由里子、神木隆之介、福山雅治、Perfume、サザンオールスターズなど

<営業収入>

- ・ イベント収入(大型コンサート公演数、規模など)が増加
(前年同四半期は桑田佳祐、星野源、福山雅治、ONE OK ROCKのコンサートなど)
- ・ 商品売上収入(コンサートグッズ、音楽パッケージ)が増加
(前年同四半期よりイベント増加による関連グッズ増加、音楽パッケージ大型作品増加)

上記要因などにより増収となりました。

<セグメント利益>

- ・ イベント制作費の増加など減益要因はありましたが、販売費及び一般管理費の減少により増益となりました。

〔メディアビジュアル事業〕

営業収入9億4千1百万円（前年同四半期比16.3%減）、セグメント利益9千4百万円（前年同四半期は4千9百万円のセグメント損失）となり、減収増益となりました。

〔主な事業〕

- ・ 映像作品販売収入：TEAM NACS 舞台「PARAMUSHIR」、
大泉洋主演映画「探偵はBARにいる3」、などのDVD販売収入
- ・ 映像製作収入：佐藤健主演映画「8年越しの花嫁」劇場配給分配収入
- ・ 番組制作収入：映画「ギャングース」制作受託など

<営業収入>

- ・ 映像作品販売収入、映像製作収入の減少
（前期は星野源主演ドラマ「ブラージュ」などのDVD販売収入、
福山雅治主演映画「三度目の殺人」劇場配給分配収入、
神木隆之介が主演声優を務めたアニメーション映画「君の名は。」DVD販売分配収入）

上記要因などにより減収となりました。

<セグメント利益>

- ・ 音楽パッケージ販売手数料（主にONE OK ROCK関連）が好調であり増益となりました。

〔コンテンツ事業〕

営業収入22億8千5百万円（前年同四半期比19.0%増）、セグメント利益8億7千6百万円（前年同四半期比26.7%増）となり、増収増益となりました。

〔主な事業〕

- ・ サザンオールスターズ、福山雅治、BEGIN、ポルノグラフィティ、Perfume、ONE OK ROCK、
BABYMETALなどによる旧譜楽曲の販売及び旧譜楽曲の二次使用

<営業収入>

- ・ 原盤印税の増加などにより増収となりました。

<セグメント利益>

- ・ 増収要因により増益となりました。

〔プレイスマネージメント事業〕

営業収入16億6千1百万円（前年同四半期比3.8%減）、セグメント損失1億1千4百万円（前年同四半期は7百万円のセグメント損失）となりました。

〔主な事業〕

- ・ 東京ワンピースタワー、アミューズミュージアムの入場料収入、グッズ販売収入
- ・ ベルギービール等の飲食店収入

<営業収入>

- ・ 東京ワンピースタワーのフォト・グリーティングなどのパーク内イベント収入が低調であったことなどにより、減収となりました。

<セグメント利益>

- ・ 減収要因により減益となりました。

【財政状態の分析】

当第3四半期連結会計期間末の総資産は409億4千万円となり、前連結会計年度末に比べ18億2千8百万円増加いたしました。主な増加要因は、流動資産「現金及び預金」の増加によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の負債は118億4千5百万円となり、前連結会計年度末に比べ6億2千6百万円減少いたしました。主な減少要因は、流動負債「未払法人税等」の減少によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の純資産は290億5千8百万円となり、前連結会計年度末に比べ24億5千4百万円増加いたしました。主な増加要因は、「親会社株主に帰属する四半期純利益」の計上によるものであります。この結果、自己資本比率は67.5%となりました。

(2) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	74,494,080
計	74,494,080

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (2018年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2019年2月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	18,623,520	18,623,520	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	18,623,520	18,623,520	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2018年10月1日～ 2018年12月31日	-	18,623,520	-	1,587,825	-	1,694,890

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2018年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2018年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,065,300	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 17,337,600	173,376	-
単元未満株式	普通株式 220,620	-	-
発行済株式総数	18,623,520	-	-
総株主の議決権	-	173,376	-

(注)1. 「完全議決権株式(その他)」の「株式数」欄には、証券保管振替機構名義の株式が400株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数4個が含まれております。

2. 「完全議決権株式(その他)」の欄の普通株式には、「役員報酬BIP信託」が保有する当社株式146,600株(議決権数1,466個)及び「株式付与ESOP信託」が保有する当社株式118,200株(議決権数1,182個)が含まれております。

【自己株式等】

2018年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社アミューズ (自己保有株式)	東京都渋谷区桜丘町 20番1号	1,065,300	-	1,065,300	5.72
計	-	1,065,300	-	1,065,300	5.72

(注)「役員報酬BIP信託」が保有する当社株式146,600株及び「株式付与ESOP信託」が保有する当社株式118,200株は、上記自己株式に含めておりません。

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

(1) 新任役員

該当事項はありません。

(2) 退任役員

該当事項はありません。

(3) 役職の異動

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
取締役 (副会長執行役員 社長代行)	取締役 (副会長執行役員)	柴 洋二郎	2019年2月13日

(4) 異動後の役員の男女別人数及び女性の人数

男性11名 女性1名(役員のうち女性の比率8%)

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2018年10月1日から2018年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2018年4月1日から2018年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。なお、新日本有限責任監査法人は2018年7月1日付をもって名称をEY新日本有限責任監査法人に変更しております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	19,889,186	22,195,520
受取手形及び営業未収入金	6,378,832	5,621,556
商品及び製品	2,005,220	1,890,587
仕掛品	1,855,400	1,753,635
原材料及び貯蔵品	109,241	135,739
その他	2,358,646	1,871,355
貸倒引当金	1,024,164	340,826
流動資産合計	31,572,363	33,127,569
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	928,695	1,128,863
土地	1,527,068	861,572
その他(純額)	190,532	576,210
有形固定資産合計	2,646,296	2,566,646
無形固定資産		
のれん	245,013	183,760
その他	222,877	219,414
無形固定資産合計	467,891	403,174
投資その他の資産		
投資有価証券	2,415,067	2,883,766
その他	2,175,325	2,124,357
貸倒引当金	200,691	200,821
投資その他の資産合計	4,389,701	4,807,303
固定資産合計	7,503,888	7,777,125
資産合計	39,076,252	40,904,694

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	8,210,362	8,056,512
未払法人税等	959,753	675,586
役員賞与引当金	23,571	-
従業員株式給付引当金	12,050	2,835
返品調整引当金	1,640	1,368
ポイント引当金	18,930	16,822
その他	2,115,628	1,908,724
流動負債合計	11,341,936	10,661,850
固定負債		
役員株式給付引当金	36,859	61,432
退職給付に係る負債	1,022,041	1,057,939
その他	71,086	64,585
固定負債合計	1,129,988	1,183,958
負債合計	12,471,924	11,845,808
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,587,825	1,587,825
資本剰余金	2,096,355	2,072,118
利益剰余金	22,628,045	25,175,376
自己株式	1,288,601	1,240,497
株主資本合計	25,023,624	27,594,821
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	41,928	35,089
為替換算調整勘定	48,016	39,512
その他の包括利益累計額合計	6,087	4,423
非支配株主持分	1,586,790	1,468,488
純資産合計	26,604,327	29,058,886
負債純資産合計	39,076,252	40,904,694

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
営業収入	33,771,859	37,985,344
営業原価	26,379,813	31,035,811
営業総利益	7,392,045	6,949,533
返品調整引当金戻入額	1,900	272
差引営業総利益	7,393,945	6,949,805
販売費及び一般管理費	5,018,376	4,341,685
営業利益	2,375,568	2,608,119
営業外収益		
受取利息	2,747	1,919
受取配当金	11,386	25,197
持分法による投資利益	-	138,925
為替差益	79,239	11,054
受取手数料	9,794	11,811
事業組合投資利益	40,419	2,276
その他	42,614	22,103
営業外収益合計	186,201	213,287
営業外費用		
固定資産除却損	-	11,870
持分法による投資損失	121,207	-
その他	4,099	5,572
営業外費用合計	125,307	17,442
経常利益	2,436,462	2,803,963
特別利益		
固定資産売却益	-	1,729,266
投資有価証券売却益	426,585	5,310
特別利益合計	426,585	1,734,576
税金等調整前四半期純利益	2,863,048	4,538,540
法人税、住民税及び事業税	1,156,447	1,396,689
法人税等調整額	125	119,530
法人税等合計	1,156,573	1,516,219
四半期純利益	1,706,474	3,022,320
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失()	144,119	95,655
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,562,355	3,117,975

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
四半期純利益	1,706,474	3,022,320
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,654	6,697
為替換算調整勘定	28,027	8,320
持分法適用会社に対する持分相当額	380	141
その他の包括利益合計	33,301	1,481
四半期包括利益	1,673,172	3,023,801
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,528,528	3,119,640
非支配株主に係る四半期包括利益	144,643	95,838

【注記事項】

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
減価償却費	203,661千円	242,345千円
のれんの償却額	100,278	61,253

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2017年6月25日 定時株主総会 (注)1	普通株式	219,498	12.5	2017年3月31日	2017年6月26日	利益剰余金
2017年11月14日 取締役会 (注)2	普通株式	219,490	12.5	2017年9月30日	2017年12月4日	利益剰余金

(注)1. 配当金の総額には、「役員報酬BIP信託」が保有する当社株式150,000株及び「株式付与ESOP信託」が保有する当社株式150,000株に対する配当金3,750千円が含まれております。

2. 配当金の総額には、「役員報酬BIP信託」が保有する当社株式146,620株及び「株式付与ESOP信託」が保有する当社株式141,370株に対する配当金3,599千円が含まれております。

当第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月24日 定時株主総会 (注)1	普通株式	219,481	12.5	2018年3月31日	2018年6月25日	利益剰余金
2018年11月13日 取締役会 (注)2	普通株式	351,163	20.0	2018年9月30日	2018年12月4日	利益剰余金

(注)1. 配当金の総額には、「役員報酬BIP信託」が保有する当社株式146,620株及び「株式付与ESOP信託」が保有する当社株式134,560株に対する配当金3,514千円が含まれております。

2. 配当金の総額には、「役員報酬BIP信託」が保有する当社株式146,620株及び「株式付与ESOP信託」が保有する当社株式118,270株に対する配当金5,297千円が含まれております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自2017年4月1日至2017年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	アーティスト マネージメント 事業	メディア ビジュアル 事業	コンテンツ 事業	プレイス マネージメント 事業	計		
営業収入							
外部顧客への 営業収入	28,998,722	1,125,223	1,921,077	1,726,835	33,771,859	-	33,771,859
セグメント間 の内部営業収 入又は振替高	74,899	90,246	209,466	44,234	418,846	418,846	-
計	29,073,622	1,215,469	2,130,544	1,771,069	34,190,705	418,846	33,771,859
セグメント利益 又は損失()	2,595,902	49,452	691,433	7,654	3,230,230	854,662	2,375,568

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額 854,662千円には、セグメント間取引消去8,752千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 863,414千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない総務・経理部門等の管理部門に係る一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	アーティスト マネージメント 事業	メディア ビジュアル 事業	コンテンツ 事業	プレイス マネージメント 事業	計		
営業収入							
外部顧客への 営業収入	33,096,624	941,597	2,285,630	1,661,491	37,985,344	-	37,985,344
セグメント間 の内部営業収 入又は振替高	54,661	139,774	273,846	43,733	512,016	512,016	-
計	33,151,286	1,081,372	2,559,476	1,705,225	38,497,360	512,016	37,985,344
セグメント利益 又は損失()	2,903,157	94,510	876,353	114,949	3,759,072	1,150,952	2,608,119

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額 1,150,952千円には、セグメント間取引消去269,122千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 1,420,075千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない総務・経理部門等の管理部門に係る一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 2017年 4 月 1 日 至 2017年 12 月 31 日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 2018年 4 月 1 日 至 2018年 12 月 31 日)
1 株当たり四半期純利益	90円48銭	180円36銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (千円)	1,562,355	3,117,975
普通株主に帰属しない金額 (千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益 (千円)	1,562,355	3,117,975
普通株式の期中平均株式数 (株)	17,267,223	17,287,286

- (注) 1 . 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2 . 「 1 株当たり四半期純利益」の算定上、「役員報酬 B I P 信託」及び「株式付与 E S O P 信託」が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております (前第 3 四半期連結累計期間 291,908 株、当第 3 四半期連結累計期間 256,090 株)。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

2018年11月13日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

- (イ) 配当金の総額.....351,163千円
(ロ) 1 株当たりの金額.....20円00銭
(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2018年12月 4 日

- (注) 1 . 2018年 9 月 30 日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払を行っております。
2 . 配当金の総額には、「役員報酬 B I P 信託」が保有する当社株式 146,620 株及び「株式付与 E S O P 信託」が保有する当社株式 118,270 株に対する配当金 5,297 千円が含まれております。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年2月13日

株式会社アミューズ

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 久保 英治 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 石田 大輔 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アミューズの2018年4月1日から2019年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2018年10月1日から2018年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2018年4月1日から2018年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アミューズ及び連結子会社の2018年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。